

農業技術 プリズム

県が育成したバレイショ「アイマサリ」はジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、早期肥大性や多収性に加え、食味も優れていることから、県内バレイショ産地では品種転換が進んでいます。

しかし、「アイマサリ」は他品種と比べて塊茎が大玉になりやすく、種芋生産では種芋規格（塊茎1個190～41g）に収まりにくいいため、種芋規格内収量の確保が課題となっていました。

そこで、塊茎の小玉化と芋数の増加が期待されるジベレリン処理が「アイマサリ」の種芋栽培に及ぼす効果を検討しました。春作早掘りマルチ

栽培において、植え付け2週間程度前の種芋をジベレリン液剤10ppmに30秒間浸漬処理したところ、処理を行わなかった場合と比較して、塊茎

「アイマサリ」の種芋栽培

ジベレリン浸漬処理 規格内収量増に有効

1個の重さは軽くなります。一方で、1株当たりの芋数と規格内収量は増加します。本試験で「アイマサリ」ではジベレリン処理による出

アイマサリへのジベレリン処理の有無による
種イモ規格内収量への影響

ジベレリン 処理	平均 一個重 (g)	イモ数 (個)	収量 (kg/㎡)	規格内収量 (kg/㎡)
有	107	5.1	363	319
無	133	3.7	353	237

※各規格は2L以上：～191g、L：190g～121g、M・S：120g～41g、種イモ規格はL～Sの190～41g

※収量は2023年、24年春作の平均値

芽、生育不良などの障害は見られませんでした。が、「アイマサリ」以外のバレイショ品種については同様の処理が有効かどうかを個別に検証する必要があります。

（県農林技術開発センター
畑作営農研究部門 中山 間宮 農
研究室主任 研究員 松田 元
太）